一般財団法人京都ユースホステル協会

2018年度事業計画書

期間:2018 年 4 月 1 日～2019 年 3 月 31 日

“ Say Hi to the world ”

若者が世界（旅）の扉を開けて学びや発見に出会うために
ユースホステルはいつも彼らを応援していきたい

〒616-8191　京都市右京区太秦中山町 29　宇多野 YH 内
TEL: 075-462-2312　FAX: 075-462-2289
URL: http://www.yh-kyoto.or.jp　E-mail: kyh@yh-kyoto.or.jp

目 次

目　次 …… 2
はじめに …… 3
国際ユースホステル連盟採択基準 …… 4

2017 年度～2019 年度　中期事業計画
3 年間の方向性／重点項目 …… 5－6

事業活動
I.　ユースホステル活動 …… 7
II.　ユースホステル関連活動 …… 8
III. 宇多野ユースホステル（指定管理事業） …… 9
IV. 天橋立ユースホステル（指定管理事業） …… 10
V.　組織運営 …… 11

予算概要 …… 12

組織概要 …… 13

はじめに

多様で急激な訪日客の増加や移動は、地域社会や経済に様々な変化をもたらすと共に、相互理解の不足からこうした変化が新たな不安や摩擦を生み出し、持続可能な観光や地域の発展を阻害し、旅行者の受け入れ制限や検討を行うなどの状況が生まれつつあります。

また、世界で広がりつつあるナショナリズムや自国優先主義が、こうした状況と相まってソフトパワーによる問題の解決や解消をより難しくしている側面が見られます。

京都ユースホステル協会では、世界の人々がとりわけ若い世代が「旅の体験や交流を通じてお互いの違いを超え、多様な生活習慣や文化的価値を理解し尊重すること」、「人と人との相互理解を促進すること」など、ユースホステルの使命を見失うことなく、現在の変化や価値基準に対応させながらユースホステルの『3 つの原則 4 つの価値基準』に沿った取り組みを進めております。

2018 年度は、京都ユースホステル協会が財団設立 50 周年の年であると共に、宇多野ユースホステルも 2008 年の全面改築から 10 周年を迎えます。

この記念の年を難しい状況にある青少年やユースホステル活動の飛躍の年とする為、ユースホステルの持つ世界的なネットワークや多様な団体、専門機関、活動者との連携をいかした記念事業の実施を始め、ユースホステルの新たな価値や魅力を伝える施設運営や事業、活動にチャレンジしてまいります。

こうした挑戦を通じて、次に掲げる課題や各事業分野の今年度目標達成に取り組んでまいります。

- 人材の育成や人的資源の活用を図る交流の促進
- ユースホステルや地域の価値を発信する体験機会等の提供充実
- ネットワークや資源を活かした持続可能な事業や施設運営の促進
- 進化する技術などを取り入れた事業、運営の効率化や資源の再配分
- 開所 55 年を迎える天橋立ユースホステルの耐震老朽化改修と持続可能な運営の検討実現

目標達成に向けた現場の職員、スタッフ一同の取り組みに対し、今後もみなさまのご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。

専務理事　髙田光治

2014 年の国際ユースホステル連盟総会で採択された

『3 つの原則と 4 つの価値基準』

≪3 原則≫

Ⅰ.「旅する自由」「旅行者の平等」の原則

- 手頃な料金の安全な宿泊施設の提供
- 世界各地からやって来る人々に出会いの場を提供
- 人種、国籍、肌の色、宗教、性別、階級、政治的信条に基づく差別を受けることのない宿泊
- 違いや多様性の尊重
- 障害者向けアクセス、奨学金／補助金での支援

Ⅱ.「学ぶ権利」の原則

- 多様な文化的価値基準、人々、地域についての理解促進、好奇心の育成
- 地域文化について学び、実地体験する機会を提供、間接教育の場／環境の提供
- コミュニティへの参加意識（学習体験としてのコミュニティ参加）の促進
- 人々／他の旅行者と長期にわたって出会う場の構築
- 互いに学び合い、また他の文化や人との出会いからの学習

Ⅲ.「持続可能性に対する義務」の原則

- 持続可能なツーリズム活動の推進
- 財政的持続可能性／金銭的公平さ（給与）
- 環境保護／二酸化炭素排出量の削減
- 地域社会への貢献／フェアトレード

≪4 つの価値基準≫

Ⅰ. 利用し易さ （Accessibility）

質の高い宿泊施設をグローバルに提供することにより、旅行の促進および普及に努める。
安全かつ手頃な料金／誰でも利用出来る施設提供／旅に関する情報とサービスを提供

Ⅱ. 一体性（Inclusivity）

違いや多様性を認め、誰もが自分の価値を実感し、一体感を持てるよう努める。
すべての人に開放／違いや多様性の尊重

Ⅲ. 学習と理解（Learning and Understanding）

次のことを通じて学習や理解の促進、支援に努める。
旅を通じて多様な文化、人々、地域について学習／責任あるツーリズムの促進／課外活動への支援／
コミュニティの一員としての活動

Ⅳ. 持続可能性（Sustainability）

次のように環境的にも社会的にも責任ある方法で行動する。
二酸化炭素排出量およびエネルギー消費の削減／リサイクル活動を通じて廃棄物の量を制限／
地域社会活動への貢献と参加／スタッフが働き、成長し、自分の価値を実感できる場の設定／
志を同じくする組織とパートナーシップを構築

ユースホステル・イメージ

“ Say Hi to the world ”

- 旅の持つ力 -

若者が世界（旅）の扉を開けて　学びや発見に出会うために
ユースホステルはいつも彼らを応援していきたい

2017年度～2019年度　中期事業計画

[3 年間の方向性]

2017 年度からの 3 年間では、若者に「ユースホステルってなんかいいね！」と感じさせる特徴的でユニークな事業を若者と協働・連携する中で作っていきます。

そのために、旅の中で若者が集い活動するための特徴ある機会と場を作り出し、そこで様々な学びや発見が起こる仕組み（ハブ機能）を強化します。

また同時に、質の高い機会と場を継続的に提供するために、その基盤となる人材の育成や組織運営の強化・効率化、活動拠点の整備・拡大等にも力を注ぎます。

[ユースホステルにおける“ハブ機能”のイメージ]

[3 年間の重点項目]

1)	**事業の特徴づくり** **ユニーク化**	外部の機関や個人と連携し、ユースホステルの新しいイメージを生み出す新規事業に取り組みます。また、継続して行う事業については、ユースホステルらしさを感じるユニークな形へと転換します。
2)	**活動拠点の整備・拡大**	若者の旅の体験を応援する活動拠点として、既存施設の充実や新たなユースホステル設置の可能性を調査・検討します。また、耐震補強等が検討されている天橋立ユースホステルの運営については、独自での運営なども含め、関係機関との協議や運営の改善を進めます。
3)	**組織基盤の強化**	全ての資源を動かす原動力となる人材の育成に引き続き力を注ぎ、組織全体の質の向上と部門管理を任せられる若手人材の育成を行います。 また、作業の効率化や適正な執行管理を行い、経費の増加抑制を含めた財務の安定に努めます。

［2018 年度の重点施策］

1. 若者に向けた出会いや交流のプログラムの開発・提供

国内外の教育旅行グループに対して、学びや気づきに結び付く出会いや交流を意識したユニークで特徴ある事業を開発し、宿泊と合わせて提供します。

2. 50 周年記念事業の実施

協会設立 50 周年を迎えるこの機に、今まで協会運営にご支援をいただいた方々、また今後連携していきたい方々ほか、新たな 50 年を進んでいくに当たり更に大切となる“つながり”を維持し広げる機会として、50 周年記念事業を実施します。

3. 多様な雇用形態の検討と核となる人材の育成

様々な労働環境の変化にも対応できる新しい雇用形態を整えるとともに、計画的な人員採用計画の下、施設の安定運営につながる体制を整えます。

また、次代を担う職員の育成も行います。

4. 天橋立ユースホステルの経営プランの策定

2019 年度に宮津市より天橋立ユースホステルが譲渡されることを前提に、自立的な運営のための経営プランを策定します。

また、課題となっている耐震補強や施設改修についても、引き続き宮津市担当課と協議を行います。

5. 宇多野ユースホステルの指定管理者再選定の獲得

指定管理期間の最終年度となる今年度も関係機関や地域と連携してユニークな取り組みを行い、施設の特徴化を進めます。

そして、2019 年度以降も引き続き指定管理者として選定されるように努めます。

事業活動）Ⅰ．ユースホステル活動

当協会が 50 周年を迎える節目の年に、ユースホステルの社会的な役割や世界的な運動理念を再度認識し、単に宿泊するだけではない付加価値として、学びや気づきに結び付くような出会いや交流を意識したプログラムの開発・提供を行います。

あわせて、若者が興味や関心を持ち、旅に出るための動機付けとなるような啓発活動や情報発信も引き続き行います。

［事業分野別目標］

■ イベント・事業活動参加者数　：延 21,000 名　（17 年度実績見込み：21,000 名）

■ 青少年対象事業の参加者数　　：延　5,500 名　（17 年度実績見込み：　5,500 名）

■ 新しい団体向け交流企画の提供：3 企画以上

［活動内容］

1. **ユースホステル交流創出事業**

多くの団体・グループの受入をしている宇多野ユースホステルにおいて、特に教育旅行団体向けにユースホステルでの交流や京都の文化に触れるプログラムを開発、提供します。

a. 海外の教育旅行グループ向けに京都の文化や生活を知ってもらえるようなツアーや体験プログラムの開発や提供

b. 国内教育旅行グループ向けにまいまい京都で実践してきたツアーの紹介や提供

c. 海外と国内のグループとの交流機会を踏まえたプログラムの開発や提供

2. **ユースホステル運動の普及活動**

外部に向けては昨年に引き続き大学や若者が集まる場所で、学びある旅に出てもらえるような啓発活動やユースホステル利用の PR を行い、宿泊している団体や個人に向けてはユースホステルおよび運動自体を認知してもらえるような広報ツールの作成を行っていきます。

a. 若旅授業や若者が集まる場でのユースホステルに関するレクチャーや講演等の開催

b. 宿泊者に向けたユースホステルを認知してもらえるツールやグッズ等の製作

3．ユースホステル体験活動の促進

ユースホステル運動の根幹である直接的な体験活動の促進のため、様々な関係機関や団体と連携して機会や場の創出を図ります。

a.　青少年向け事業の実施（ネイチャーキッズ、アースレンジャー、ガリレオサイエンス等）

b.　京都を旅するまち歩き事業「まいまい京都」の継続支援

c.　国内外のインターンシップ生の受け入れ

４．京都ユースホステル協会 50 周年記念事業の実施

2018 年が当協会設立 50 年の節目の年となるため、今までのつながりを大切にし、これからの新しいつながりを築く機会として、記念の式典や事業を実施します。

a.　50 周年記念式典の実施

b.　50 周年を記念した子どもの旅プログラムや旅イベントの実施

c.　50 年を綴った記念誌の発行

事業活動） II. ユースホステル関連活動

安全安心な地域の食材を食べるということを伝えていきたいと考えています。日本人も海外からのゲストもファストフードやインスタント食品で食事を済ましてしまう若者が多くなっています。旅先であっても夕食や朝食をきちんと取ることができる環境を整え、美味しく健康的な食事を提供することにより、摂取数を上げることに取り組みます。

［事業分野別目標］

■ 年間食事提供数：（夕食） 22,000 食 摂取率 54.7% （17 年度実績見込み：21,900 食）
（朝食） 32,500 食 摂取率 80.8% （17 年度実績見込み：31,500 食）

■ アンケート満足度評価： 4.5 以上（5 点満点）

［活動内容］

1. 健康で体にやさしい食を提供

ユースホステルとしての青少年育成の大切な取り組みの一つとして、ヘルシーで栄養のある食事を提供することを目指します。

a. 地産地消や近郊で採れたものを提供する検討
b. オーガニック食材の活用
c. 若者に喜んでもらえる新しいメニューの開発

2. 次のステップへの取り組み

固定観念から脱し、本当の需要を探ることにチャレンジします。

a. 夕食時にもパンを提供するなどの試行
b. 聞き取り調査を実施し、国籍によって異なる食の好みを把握
c. 食べ残しなどの客観的な分析
d. おばんざいバイキングなどの特色ある提供を年 4 回実施

3. 安心・安全な食事の提供

食中毒やウイルスの拡散などが季節を問わず起こる昨今、食事提供に携わるスタッフは日頃からよく勉強し、絶対に安全な食の提供を行います。

a. 保菌検査の定期的な実施
b. 保健所などと連携した講習での知識と意識の向上

事業活動）Ⅲ. 宇多野ユースホステル

変化する時代にしっかりと乗りながら、それにあった宇多野ユースホステルの新しい姿を構築し、利用者の増加を目指します。同時に、私たちの活動を伝え理解や協力を得ることを大事にし、社会でのつながりを増やしていきます。

また、社会貢献・地域連携を積極的に行い、青少年育成施設としての存在意義を高めます。

［事業分野別目標］

■　年間宿泊者数　　：40,200 名
　　（17 年度実績見込み：38,500 名）

■　年間外国人宿泊者数：12,060 名／全体の 30%
　　（17 年度実績見込み：9,760 名）

■　年間青少年宿泊者数：26,130 名／29 歳までが全体の 65%
　　（17 年度実績見込み：25,250 名）

［活動内容］

1.　宿泊誘致プロモーションの展開

めまぐるしく変化する時代に合った有益なプロモーション 活動を行うことで、宿泊実績の増加に取り組みます。

a.　ホームページのリニューアルと SNS の効率的な活用
b.　自社予約サイトの構築と、OTA（オンライントラベルエージェント）の有効利用
c.　青少年団体を中心に海外・国内ともに積極的な営業活動
d.　国内のキーユースホステルと連携した団体誘致活動

2.　ユースホステルとしての社会貢献と認知

社会貢献、地域連携の実施と合わせ、ユースホステルが担っている青少年育成の役割を、利用者を始め各方面に伝えていきます。

a.　地域の学校から学生を受け入れ、社会体験の場を提供
b.　利用団体や参加者にユースホステルの活動について周知するための掲示
c.　外国人青少年スタッフの受け入れと、地元での交流活動の機会増加

3.　次のステップへの取り組み

宇多野ユースホステルは建替から 10 年を迎えます。今後も長くゲストや市民から愛され、利用していただける運営と施設維持に全力で取り組みます。

a.　次期指定管理の応募への取り組み
b.　次を担う若手スタッフの育成
c.　施設を美しく維持するための修繕実施
d.　ユースホステル会員と非会員の料金差を設ける試み

事業活動）Ⅳ. 天橋立ユースホステル

新たな指定管理での運営の一年となります。第一に運営体制の確立と収支の改善に努め、そして今後の継続的な運営を考える上で重要な耐震補強や施設改修と合わせた施設譲渡に関する条件を十分に検討します。

諸条件が整う中で、旅行者と市民や地域との出会いや交流が生まれる観光交流拠点としての機能を高めます。また、立地を生かして自然災害・津波時の緊急避難にも対応できる地域の安心安全拠点としての機能も充実させるなど、特色ある施設運営を目指します。

［事業分野別目標］

■　年間宿泊者数　　：3,400 名　（2017 年度実績見込み：2,900 名）

■　年間外国人宿泊者数：　850 名　（2017 年度実績見込み：　800 名）

■　（次年度以降継続の条件が整えば）耐震補強及び改修に向けた準備を進める

［活動内容］

1.　収支改善のための取り組み

a.　伸び幅の高い海外からのゲストに向けた国内外の予約サイトの活用と宿泊プランの提供

b.　国内の大学や留学生等、小規模教育旅行の誘致推進

c.　宇多野ユースホステルと連携をした広報や誘致活動の実施

2.　地域資源を活用した取り組み

a.　天橋立観光協会等が取り組む天橋立アクティビティセンターと連携し、シーカヤック体験や朝釣り等と宿泊を組み合わせた宿泊プランの提供

b.　丹後の朝獲鮮魚や野菜を使ったバーベキュープランや冬場のカニ料理、地酒や酒の肴等、地元の味覚を提供

c.　福知山公立大学等と連携したインターンシップの受入による地域情報発信

3.　運営体制の安定化と効率化

a.　日常運営に支障がない新規体制作り

b.　年間を通じた利用を見通し、閑散期にはランニングコストに対する費用対効果を考え、休館日の設定や効率的な運営による経費の増加抑制

4.　耐震補強・改修および今後の運営の検討

a.　宮津市との継続運営のための協議

b.　改修スケジュールの作成及び管理

c.　改修を見据えた施設整備や運営計画の作成

事業活動）Ⅴ. 組織運営

年々、若い世代の人材確保が困難になりつつあり、また労働契約法の改正に伴う無期労働契約への転換など、安定した組織運営を継続するために大切な人材の計画的確保・育成・活用がより重要になってきています。

そこで、これからの様々な環境変化にも対応できる多様な雇用形態を整え、職員一人ひとりが自立的に活動できるように指導やサポート、環境整備を行います。

［事業分野別目標］

■　多様な雇用形態の整備

a.　勤務日数や勤務時間数に幅を持たせた雇用形態の検討

b.　外国人の職員雇用の検討

c.　労働環境や各種処遇の見直し

予算概要

［予算概況］

2018 年度は、当協会の財団設立 50 年の節目の年を迎えるため、記念式典や記念事業といった取り組みのための費用（316 万円）を一般会計で計上しています。また、協会の人員体制においては、将来を見据えて嘱託職員 1 名を正職員に登用するため、欠員となる嘱託職員はアルバイトに置き換えるなどの工夫をしています。

宇多野 YH は安定運営につなげるためにも、再び 4 万人を超える宿泊実績を必達目標として進めます。その中で、リニューアル 10 周年を迎える年でもあるため、記念イベントのための費用計上（25 万円）を行うとともに、引き当ててきた修繕費（500 万円）を取り崩し、今年度分（250 万円）と合わせて施設や設備の中規模修繕・メンテナンスを行います。

食堂運営では、個人旅行者でも期待できる朝食提供数の増加を目標に、5,984,000 円の収益を目指しています。

一方、1 年間の指定管理者延長となる天橋立 YH では、スタッフの入れ替わりによる経費増加を可能な限り抑え、収支均衡の運営を目指します。

その結果、当期正味財産増減額は 2,059,000 円となりますが、将来に向けた取り組みを着実に実行していきます。

［経営実績の推移］

	14年度実績	15年度実績	16年度実績	17年度見込	18年度予算
経常収益（売上）	196,946,399	220,025,139	217,538,436	213,236,898	225,698,000
ﾕｰｽﾎｽﾃﾙ活動及び関連活動	60,623,410	59,271,571	60,002,708	63,075,655	64,284,000
指定管理業務	125,876,710	149,859,130	147,867,155	141,267,523	152,312,000
組織運営業務	10,446,279	10,894,438	9,668,573	8,893,720	9,102,000
経常費用（費用）	186,432,548	212,862,897	211,008,692	210,408,027	223,639,000
ﾕｰｽﾎｽﾃﾙ活動及び関連活動	53,149,431	54,137,508	55,758,753	55,814,069	62,266,000
指定管理業務	121,991,861	147,717,115	145,933,870	144,574,552	152,312,000
組織運営業務	11,291,256	11,008,274	9,316,069	10,019,406	9,061,000
当期経常増減額（経常利益）	10,513,851	7,162,242	6,529,744	2,828,871	2,059,000
経常外増減額（経常外利益）	0	0	▲ 5	0	0
当期正味財産増減額（純利益）	10,513,851	7,162,242	6,529,739	2,828,871	2,059,000
次期正味財産期末残高	78,263,945	85,426,187	91,955,926	94,784,797	96,843,797

（内、公益目的事業）

	2014 年度	2015 年度	2016 年度	2017 年度見込	2018 年度予算
公益目的財産額（期首）	51,297,844	54,189,392	53,968,351	53,845,519	48,655,251
公益目的収支額	2,891,548	▲221,041	▲122,832	▲5,190,268	▲5,494,000
公益目的財産額（期末）	54,189,392	53,968,351	53,845,519	48,655,251	43,161,251

［2018 年度予算］

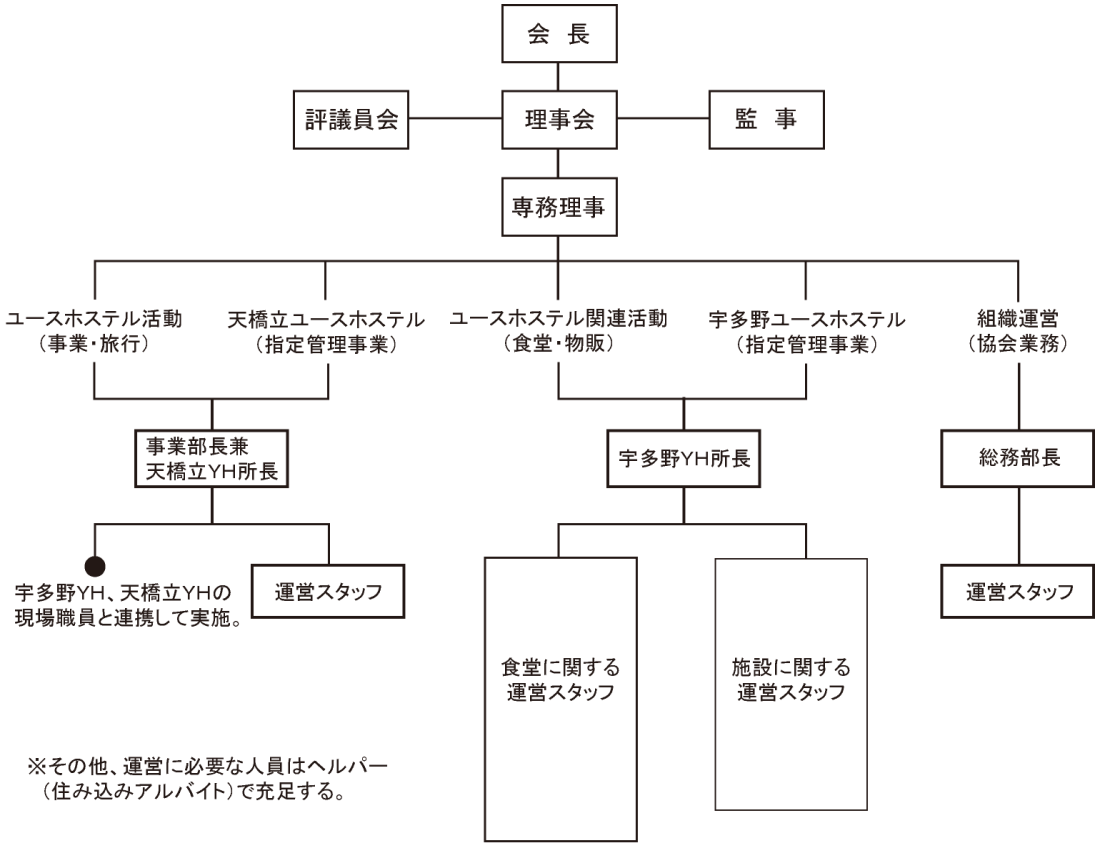
※ 別紙「2018 年度事業予算（案）」をご参照下さい。

組織概要

［組　織］

組織全体として適正な人員体制を整え、状況に応じ、部門を越えて相互に連携できる組織を目指します。

［組織体制図］



［協会役職員数］

評議員：10 名、理事：9 名、監事：3 名、職員：30 名（アルバイト・パート含む）

［協会名］	一般財団法人　京都ユースホステル協会
［代表者の役職氏名］	会長　堀場　厚
［財団設立］	1968 年 2 月 12 日
	※　2011 年 8 月 1 日（一般財団法人へ登記移行）
［協会所在地］	京都市右京区太秦中山町 29　宇多野ユースホステル内
［電話番号］	075－462－2312（代表）